

会員だより

今年も咲いて くれました

我が家の入り口に、今年もアジサイが咲いてくれました。このアジサイは十数年前に、萩谷公園に植樹をした際、2本の苗木を貰い受け、我が家の入り口と中庭に植えたもので、毎年咲いてくれます。咲く花の色はあまり美しくありません。はじめは白色でやがて紫色に変色します。



玄関の紫陽花

入り口に植えた木は毎年大きくなり、郵便受けやインターホンを隠すように大きくなります。中庭に植えたアジサイもとても大きくなっています。

植木の手入れはほとんど家内がしてくれており、年1回植木屋さんに手入れしてもらっています。家内は草花を買ってき

す。近所の皆さんからのお声かけが嬉しく毎日せせと手入れをしています。これから夏場にかけて水道代が嵩むのを心配しています。

記・写真：奥田常夫



ヨドコウ迎賓館 見学のご感想

6月15日ヨドコウ迎賓館に見学に出かけました。昨日からの雨が8時過ぎにやみました。V.G 槻輪のお仲間には晴れ男と女が居るようです。阪急芦屋川駅に着いたころには、傘は袋の中に入っていました。

高齢者には少しきつい登りのライト坂を、緑に映える高級住宅街を眺めながら総勢14名無事到着。この迎賓館はアメリカ人のフランク・ロイド・ライト氏の設計で、何よりも彼は旧帝国ホテルの設計者として知られています。

(大正12年(1923)に起きた関東大震災でも旧帝国ホテルは無事でした) その彼が当時の灘の酒造家8代目山邑田左衛門の依頼を受けて、大正7年

(1918)別邸とし設計したものです。帰国後、弟子の遠藤新・南信ら多くの建築に携わるプロの職人芸の結集で完成した大正の歴史にのこる大豪邸です。

昭和22年(1947)に株式会社淀川製鋼所が購入して、平成元年(1989)よりヨドコウ迎賓館として現在のような姿として、六甲の山並みを背景に雄姿を現しております。

何度か修復し、戦争にも地震にも耐えています。巨匠 F.R.W.に興味を持った多くの建築設計志望の若者たちの学びの場であり、私達の目を楽しませてくれています。



左右バランスのとれた
大谷石の装飾の玄関

まず、広々とした玄関の車寄と見晴らしの良いロビーです。次に段差のない玄関に入ると直ぐに2階へ上がる階段ですが、コンクリート製の建物ですが

重圧・圧迫感が全然感じられません。

2階の応接室は、高低二重の天井で自然の風通し・採光を取り入れ、部屋開放感を先ず感じます。



応接室は二重天井で明るく
窓はガラス張りで広く感じる

各部屋にはマホガニー材を使った幾何学模様の飾りが随所にあります。私には贅沢の極みに見えました。

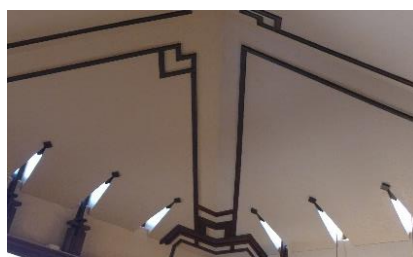


各部屋にマホガニー材の家具
重厚と優雅を感じる

各所に収納ボックスがあり、炊事場には収納棚が機能的に配置されています。驚いたことは、当時流し場に、冷水と温水の蛇口

が有り、流しの下に約2cm程度のガラスの丸棒が敷かれていて、全然水しぶきが跳ね返らない様になっていることです。

浴室は、タイル貼りですが、コーナー部は入浴者の安全を考え角は曲面仕上げにし、浴槽は木製です。4階の食堂は、天井の中央部を高くした船底型です。



4階の食堂は船底型天井
換気口は三角で通気・採光

換気口を三角にし、昼間は光が差し込み、夜は星空が見えるなど全てに、このような使用者の配慮がされています。私の拙い感想ですが、大正時代にあの豪邸を建てる大金持ちの個人実業家がいたこと、また遠藤新・南信、愛弟子により、日本の風土、四季、光、風、自然災害対策も考えた大豪邸を作られたことにおどろきました。

記：宝角弘枝

特記
仏像彫刻家
西村公朝さんを
知ろう!!

我々、V.G 槻輪が毎月開催しています「わがまち紹介」で、2021年11月嵯峨鳥居本の愛宕念仏寺に訪問した時、住職の西村公朝さんに愛宕念仏寺の説明を丁寧にしていただきました。

その時、「父上の故西村公朝氏は、仏像彫刻家である名な方で高槻市富田出身」とお聞きしました。

故西村公朝氏は、訪問前に調査し仏像彫刻家で廃寺を再建された方であると知って訪問しました。でも、高槻市富田の出身とは全然知りませんでした。

その後調べて行きますと、大正4年(1915)6月4日大阪府三島郡富田町の父利兵衛、母ミツの長男として出生、利作と名付けられた。

父の実家は、米や雑貨商を営んでおられた。大正11年富田尋常高等小学校に入学されています。

以後は次号で報告しますが、日本で有名な仏像修理・彫刻家で宗教家です。

記：大岡成一